

伊那谷リニアバレーNEWS

～長野県にリニアがやってくる！～

VOL.7 令和5年 3月 31日発行
 長野県 建設部 リニア整備推進局
 TEL:026-235-7016
 FAX:026-235-7482
 E-MAIL:linear-kyoku@pref.nagano.lg.jp

■ リニア開業を見据えたまちづくり講演会を開催しました！

3月16日(木)、飯田市エス・バードにてリニア開業を見据えたまちづくり講演会を開催しました。今回は、「伊那谷地域の未来像を描くために」～リニア開業を見据えたまちづくりを企業立地の視点から考える～をテーマとし、前内閣官房内閣審議官文化経済戦略特別チーム長である間宮淑夫氏の基調講演や事業者による事例紹介、講演者によるパネルディスカッションを開催しました。



講演会内容について、4月中にYoutubeにてアーカイブ配信を行いますので以下のURLからチェックしてください！

URL: <https://www.youtube.com/@linear-kouenkai>

■ 伊那谷自治体会議を開催し、伊那谷の特色として打ち出す地域の方向性を協議しました！

2月10日(金)、リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議をオンラインにて開催しました。

会議では、伊那谷の強みを活かした地域の方向性や重点的な取組、企業誘致の今後の進め方について協議したほか、飯田市長から「リニア長野県駅(仮称)の広域的な利活用検討の進め方」等について報告がありました。



今後、今回確認された地域の方向性を踏まえ、国内外から選ばれる地域となるため、官民一体で取組を進めてまいります。

■ 松川町の小学校でリニア工車のダンプを使った安全教室を開催しました！

～松川町とJR東海の取組～

リニア工事用車両をはじめ、大型車との交通事故を防ぐため、令和5年1月・2月に松川町立松川中央小学校・松川北小学校の児童を対象に交通安全教室が開催されました。交通安全教室では、実際に使われているダンプカーを校庭に入れて、大型車特有の危険性(死角・内輪差)を説明し、児童たちは、実際に運転席から周囲がどう見えるのか、また、大型車の内輪差はどのくらいあるのかを体感し、今まで知らなかった危険性について勉強することができました。

■「空の移動革命」実現に向け、勉強会を開催しました！

県企画振興部では、3月16日（木）に「空の移動革命」を推進する官民連携の協議会を設置し、にむけ、「空の移動革命」とは何なのか、国内外の動向や期待、信州で取り組む意義などを共有する勉強会を開催しました。

今後、将来的にはリニアと空飛ぶクルマとの交通上の連携も視野に、『山梨・長野・岐阜三県リニアに関する共同研究会』などの枠組みも活用しながら、研究を進め、ドローンの利活用や「空飛ぶクルマ」など次世代の輸送インフラについて勉強し、一日も早い社会実装に向け取組を進めてまいります。

当勉強会については、右の二次元コードや以下のリンクから資料を見ることができます！

URL: <https://sites.google.com/union.nagano-map.lg.jp/nagano-dx/airmobi>



■開業効果をより広く波及するリニア駅の利活用に向けて ～飯田市の取組～

飯田市では、昨年12月にリニア駅前広場の土木実施設計の成果を発表しました。今後は建築関係の設計を進めつつ、「次世代インフラ」「トータルデザイン」「公民協働ブランドクリエイティブ」の3つのプロジェクトによる広場・高架下空間の活用・運営や新たなモビリティの活用を視野に入れた交通体系具体化の検討に引き続き取組、必要な機能の実装を進めます。

また、リニアの整備効果が幅広いエリアで享受できるよう、多様な観点から検討を進めるため、飯田下伊那圏域を越える二次交通や総合的な情報発信に関する民間や県・広域連合等と連携した体制を構築し、これまで以上にリニア開業を見据えた取組を進めてまいります。

飯田市では、リニア事業の進捗や検討の状況を動画でお知らせしています。
本線や駅工事、関連道路などの最新状況の動画第2弾を配信中！（令和5年2月テレビ広報）

★詳細は市ウェブサイトID検索
またはQRコードから

ID 🔍 検索



■「上伊那×若者つなぐプロジェクト始動」！ ～若者目線で地域の課題を抽出～

上伊那地域の企業・団体・行政で働く若手職員が若者目線で地域課題を抽出することを目的とした「上伊那×若者つなぐプロジェクト」（事務局：上伊那広域連合）が始動しました。プロジェクトでは初めての取組として、「かみいなワカモノ交流会」を開催。上伊那につながるのある20代から30代前半の総勢26名が参加し、お互いの仕事やプライベートの話をする中で交流を深め、より良い地域づくりに目を向ける機会となりました。

プロジェクトの活動についてはInstagramで発信していますのでぜひご覧ください。



KAMITUNA

■飯田市龍江の農家民泊の魅力を再現ドラマで発信！

～飯田市龍江地域づくり委員会の取組～

飯田市龍江地域づくり委員会では、農家民泊を営む杉山さん、古民家宿を営む中島さん、農家の松尾さんによる、農家民泊の魅力を伝える動画を作成し、現在 youtube にて公開されています。

動画内でも、農業に興味を持つ方々が民泊を通じ関係人口の創出につながる事が理想とし、世代を越えた連携をとってどう農家民泊を活かしていくか、引き続き取組を進めていきます。本動画は以下のリンクから視聴することができます。

URL: https://www.youtube.com/watch?v=eDyKf_sncbk

他にも、龍江地区では、地域人教育※で OIDE 長姫高校生と地元団体が協同し、冬季に桜街道（シャルルヴィルメジェール通り）にイルミネーションを設置するなど、精力的に取り組まれています。

※地域人教育：高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育むことを通じて、地域を担う人材を育成することを目的とした教育プログラムです

龍江 HP : <https://tatue.jp/>



■インバウンドの本格的な需要回復を見据え、「昇龍道フリーバスきっぷ」をリニューアル！

～名古屋鉄道(株)の取組～

名古屋鉄道(株)では、外国人旅行者や在留外国人向け商品として、中部北陸エリアの観光拠点を結ぶ高速バスおよび路線バスのフリーきっぷと空港アクセス乗車券をセットにした「昇龍道フリーバスきっぷ」を4月1日にリニューアルし、利便性の向上を図ります。本リニューアルでは、新たにデジタルきっぷサービスを導入しました。これにより、紙の乗車券への引き換えが不要となり、お客さまが所持するスマートフォンやタブレット端末などで、きっぷの画面を提示することでバスの乗車が可能になります。

同きっぷには3つのコースがあり、その中でも飯田・伊那・駒ヶ根・松本を中心に、長野県を縦断できる「松本・馬籠・日本アルプスコース」も販売しております。3日間対象路線の高速バス及び路線バスが乗り放題となるため、美しい自然を眺めながら各地を自由に移動できエリア内を満喫することができます。

詳細は、下記 URL をご参照ください。

URL: https://www.meitetsu.co.jp/profile/news/2022/_icsFiles/afieldfile/2023/03/30/23-03-30shoryoudorenewal.pdf

※昇龍道…能登半島が龍の頭の形に似ており、龍が昇っていく様子を思い起こさせることから、中部・北陸地方は「昇龍道」と名付けられました。

■急行「飯田線秘境駅号」「ディスカバー飯田線号」を運行！ ～JR 東海の取組～

JR 東海では、飯田沿線にある鉄道以外に到達が難しい駅を巡る急行「飯田線秘境駅号」を今春も運行します！また、新しいイベント列車として急行「ディスカバー飯田線号」を運行します。イベント列車に乗って飯田線の魅力を満喫してみたいかがでしょうか。

【運転日】急行「飯田線秘境駅号」：4月1日（土）、8日（土）、15日（土）、
5月3日（水・祝）、5日（金・祝）

急行「ディスカバー飯田線号」：5月4日（木・祝）

【運転区間】急行「飯田線秘境駅号」「ディスカバー飯田線号」：
＜上り・下り＞豊橋駅⇄飯田駅〔上下各1本〕

詳しくは、下記 URL をご確認ください。

URL: https://jr-central.co.jp/news/release/_pdf/000042575.pdf



飯田線秘境駅号



三河榎原駅



飯田線秘境駅号
ホームページ

■地域課題を解決するため、ドローンを使った配送実験を実施しました。

～天龍村と配送事業者の取組～

天龍村とセイノーホールディングスなど4社は、ドローンの配送実験を行いました。村内は、高齢化率が高く、買い物弱者対策や災害対策にドローン配送が重要な役割を果たすため、今後、実業化に向け、関係者と検討を進めていきます。

今回の実証では中山間地域での災害時を想定し天龍中学校に仮設のドローンデポを設置して、エアロネクストが開発をした物流専用ドローンを用いて避難所指定の天龍小学校、天龍保育所への救援物資を想定したカイロ、お菓子、食料品を配送しました。

ドローンが空から降りて来て商品が届けられた際は、児童たちから大歓声があがり、児童代表の生徒は、「ドローン大きくてビックリしました。沢山運んでくれてありがとう。」とコメントしています。



■辰野町へ移住を検討する方々への支援を強化します～辰野町の取組～

辰野町では、令和5年度から、滞在期間に応じた複数の支援制度で移住を後押しします。

空き家バンクに登録された物件を町が借り受けて、5日から1か月の短期移住体験施設として活用でき、利用者がその物件を気に入ればそのまま購入できるような仕組みを構築するなど、空き家利用を今まで以上に促進していきます。

また、民泊事業者とも連携を図り、短期滞在者も一定の条件で助成するなど移住検討者への多様な要望に応じていきます。

「たつの暮らしお試し滞在事業」については、以下の URL からご覧ください。

https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/soshiki/machizukuriseisakuka/kurashi_tetsuzuki/2/1/2766.html

■リニア山梨県駅（仮称）へのアクセスについて調査研究を進めます ～富士見町の取組～

長野県内で最も山梨県駅（仮称）に近い富士見町では、同駅の活用について、人口減少対策や地域活性化の観点から、リニア開業に向けて調査研究や実証実行を進めていきます。

同駅を利用することで、都心から1時間程度でつながることができる富士見町は、これまで以上にリニアを絡めた産業、観光に注力していきます。

■インバウンド向けに“映える”盛り付けを学び合いました ～伊那市観光協会の取組～

「インバウンド再生元年」である2023年、伊那市観光協会では、伊那民泊協議会員を対象にインバウンド向け料理教室を開催しました。

参加された受入家庭同士のコミュニケーションを育みながら、訪れる方々に喜んでもらえるための盛り付けについて学び、アイデアや知識を共有するいい機会となりました。

県リニア整備推進局では、リニア中央新幹線開業に向け、気運の醸成を図るため、資料などへ使用できる右のロゴマークを作成しました。

今後、資料に貼付するなど積極的に使用していくほか、伊那谷リニアバレーNEWSを読まれる皆様にも、使用していただきたいと思います。利用をご希望の場合、担当までご連絡ください。（連絡先：026-235-7016）



©長野県